

平成31年1月22日



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館
KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

太平洋と東シナ海の深海域で発見された

新種の魚類論文発表と標本展示公開

この度、当館の日比野友亮学芸員、北海道大学総合博物館の田城文人助教らが研究を行なった現生魚類（ウミヘビ科：ウナギやアナゴに近いグループの魚）4種が新種であることが分かり、国際学術誌に命名論文が掲載されました。また、これら4新種を下記のとおり特別公開します。

【記】

1. 展示標本 4新種の命名に用いた標本の実物（計4点）
2. 産 地 静岡県・三重県・高知県沖の太平洋及び東シナ海の深海域
3. 掲載雑誌 イクチオロジカル・リサーチ（日本魚類学会発行の魚類の専門国際誌）
著者：日比野友亮（責任著者）（北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員）
ジョン・マッコスカー（カリフォルニア科学アカデミー 名誉研究員）
田城文人（北海道大学総合博物館 助教）
4. 意 義 日本の原生海棲ウナギ目魚類の多様性解明に寄与
5. 特別展示 期間：平成31年1月25日（金）から2月8日（金）までを予定
場所：北九州市立自然史・歴史博物館
6. 詳細情報 別紙参照

論文・展示に関するお問い合わせは下記まで。

【お問い合わせ先】

いのちのたび博物館（北九州市立自然史・歴史博物館）

〒805-0071 北九州市八幡東区東田 2-4-1

電話：093-681-1011 担当：自然史課 学芸員 日比野
普及課 浅川

北海道大学総合博物館水産科学館

〒041-8611 函館市港町 3-1-1

電話：0138-40-5553 担当：研究部 助教 田城

新種のウミヘビ科魚類 4 種を発見しました

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）、北海道大学総合博物館、カリフォルニア科学アカデミー（アメリカ）の共同研究により、日本の海域から 4 種のウミヘビ科魚類が新種として発表されました。日本国内ではこれまで、55 種程度のウミヘビ科魚類が知られており、今回の発表を含めると日本の海域は台湾海域と並び本科魚類の種の多様性が非常に高いことが明らかとなっています。また、発表に合わせ、1 月 25 日より実物標本の特別展示を行います。

記

和 名： クサナギウミヘビ（図 1）

和名の意味： 発見場所の駿河湾に面した駿河国の、日本武尊^{やまとたけるのみこと}の草薙剣伝説に因む

学 名： *Ophichthus kusanagi*（オフィクサス・クサナギ）

学名の意味： 種名「クサナギ」（和名に同じ）

最大全長： 約 70 cm

発 見 地： 静岡県駿河湾（基準標本の産地）、ほか三重県尾鷲沖、高知県土佐湾

本種の特徴： 吻^{ふん}（眼より前の口先の部分）が尖^{とが}っていること、歯が比較的細かいことなど。

和 名： ヤマイスウミヘビ（図 2）

和名の意味： 顔つきが山犬を連想させることに因む

学 名： *Ophichthus lupus*（オフィクサス・ルプス）

学名の意味： 種名「ルプス」＝（顔つきが山犬（ルプスはラテン語でオオカミ）を連想させることに因む）

最大全長： 約 80 cm

発 見 地： 東シナ海

本種の特徴： 脊椎骨の数が多く、胸^{むな}鰭^{びれ}が短いこと、吻が尖り長いことなど。

和 名： ツマリウミヘビ（図 3）

和名の意味： 体が短く、寸詰まりであることに因む

学 名： *Ophichthus oligosteus*（オフィクサス・オリゴステウス）

学名の意味： 種名「オリゴステウス」＝（骨が少ないという特徴に因む）

全 長： 約 30 cm

発 見 地： 高知県土佐湾

本種の特徴： 脊椎骨の数がきわめて少ないことなど。

和名： モノサシウミヘビ（図4、5）
和名の意味： 物差しのようにほぼ等間隔の模様があることに因む
学名： *Ophichthus yamakawai*（オフィクサス・ヤマカワイ）
学名の意味： 種名「ヤマカワイ」＝（長年高知県の魚類学に貢献された山川武氏に因む）
全長： 約 40 cm
発見地： 高知県
本種の特徴： 体に不明瞭な等間隔の模様があること、脊椎骨が多いことなど。

発表学術誌： イクチオロジカル・リサーチ（日本魚類学会発行の魚類学の国際誌）
著者： 日比野友亮（ひびのゆうすけ）（北九州市立自然史・歴史博物館）
ジョン・マッコスカー（カリフォルニア科学アカデミー）
田城文人（たしろふみひと）（北海道大学総合博物館）
出版日： 2019年1月2日

ウミヘビ科魚類について

ウミヘビという名前の生物には爬虫類と魚類があり、今回のものは魚類のウミヘビです。魚類のウミヘビはウナギ目というグループに含まれ、ウナギやアナゴ、ハモといった魚に近い仲間です。多くの種は夜行性で、日中は砂や泥に潜って生活しています。

発見の経緯

ウミヘビ科魚類の多くは目立った模様がなく、またグループ全体がよく似た形をしています。そのうえ、食用となる種がごく少なく、細長い体で採集が難しいことから、分類学的な発見が遅れています。今回発見された4種のうち、3種については国内の大学や博物館に長年、別の種の名前で登録されていたり、あるいは種が分からないまま保管されていた標本を既知の種と比較しながら詳しく調べた結果、明らかになったものです。このことは、日本各地の博物館や大学、研究機関が、日々多様かつ多数の魚類標本を継続して収集、作製、保管していることが日本の海域の生物の多様性研究にとって重要な意味をもっていることを示しています。

特別展示について

本発表に合わせて、いのちのたび博物館では1月25日から2月8日までの2週間限定で、特別展示を行います。今回発表の4種すべてのホロタイプ（新種命名の基準となった世界唯一の標本）またはパラタイプ（ホロタイプを補完する標本）の実物展示で、エントランスの無料ゾーンでご覧いただけます。

図1：クサナギウミヘビ *Ophichthus kusanagi*



図2：ヤマイヌウミヘビ *Ophichthus lupus*



図3：ツマリウミヘビ *Ophichthus oligosteus*



図4：モノサシウミヘビ *Ophichthus yamakawai*



図5：モノサシウミヘビの体側の拡大写真（矢印は体側の斑紋を示す）

